

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4270104989
法人名	ラッキー自動車株式会社
事業所名	グループホーム 陽光の家
所在地	〒852-8121 長崎県長崎市三川町924-5 (電話) 095-813-0166

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,460 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	三原台病院・しらいし歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三川川に沿った道路の両脇に住宅が立ち並ぶ中、近隣の住宅に自然に溶け込んだ佇まいをもって当ホームは、常に、ホームの玄関ドアは開放され、それ以上に利用者、職員の明るく訪問者を迎え入れる雰囲気が近隣住民との交流を豊かにしている。ホーム全体が持つ前向きさが近隣住民の理解を得られ支援を受けることが出来てきたが、さらに地域密着を意識して、当ホームが地域に役立てることはないかと検討も始めた。利用者は全員女性、また、女性職員に混じり、男性職員が1名ということもあり、柔らかくでやかなやり取りが、楽しい食卓や日常の細やかなケアにみられる。内外の取り組みの基盤にあるのはサービス向上に意欲を絶やさない管理者と計画作成担当者、職員の確かなチームワークであり、試みを見守る事業主のバックアップである。利用者の経年的変化に対しアプローチがむずかしくなりつつあるが、認知症の更新阻止を目指しスタッフは明るく真摯に取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 自治会の加入、献立に対する栄養士による定期的な指導等、改善項目については着実に目標を立て、計画し取組まれている。そういった見直し、改善点に対してのプロセスをより明らかにして今後に役立てるためにも改善計画シートを活用されて、一層のサービスの向上を目指すことに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を管理者はじめスタッフがよく理解されており、今回の自己評価もミーティングにより職員に聞き取りをしながら、管理者と計画作成担当者がまとめるという形で全員で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 現在の会議構成メンバーは自治会長、地域包括支援センター、職員、民生委員、家族等で構成されているが、会議のテーマに応じて消防分団長、警察署等への参加等、働きかけを検討するなど地域密着を踏まえ、当ホームは積極的に取り組んでいる。今後もグループホームに対する理解と支援を得られるよう発信し、メンバーからは様々な意見を引き出すことで会議を改善の取り組みに活かして行かれることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 管理者の努力により家族会が発足し、家族の当ホームに対する意識は前進している。今後は会の運営の主体を徐々に家族へ移行し、家族同士の集まりの中で率直な意見を得て、サービスに反映させて行かれることに期待したい。加えて開設して4年を過ぎた現時点での満足度調査をお願いしたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事への参加はもちろんだが、近隣の方が苗を持ち寄って下さった花壇の花々、当ホーム駐車場に停まった移動販売車に近隣住民が立ち寄り、利用者も刺身用の魚を楽しげに覗く、近隣に住む友人が気兼ねなく立ち寄り、そういった日常からも地域との自然で温かなつながりと暮らしが感じられる。利用者、スタッフの地域の一人として積極的な取り組みの維持と、更なる充実が期待される。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	文言として地域密着型を織り込んではいないが、ゆっくり、のんびり、自由に、ありのままにの基本理念を地域の人々と暮らす日常で確実に実践され、地域に根ざした安らぎのある生活を送ることを目指す理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関等、目に付きやすい場所に理念は額装して掲げられ、申し送り時にも念頭に置きながら確認し、管理者、職員共に、地域との関わりの中にある生活と日常のケアに浸透できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には積極的に入会し、様々な会合行事に参加されている。その際には、入所者に対する細やかな配慮を地域住民より頂き、楽しい交流ができています。また、市民大清掃にも参加し、老人会行事においては事業所で作成した「歌本」(歌詞集)を用意して提供したり、利用者の三味線演奏披露が大変喜ばれ好評を得ています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の最終的な取りまとめは、管理者と計画作成担当者で行ったが、評価は全員で取り組むという共通認識のもと、職員の日々の振り返りと気付きをミーティングで確認し作成した。		管理者、計画作成担当者、職員は、評価の意義について大変深く理解をされており、今後一層のサービスの向上が期待される為、評価後の改善へ向けてのこのプロセスが確認でき実行がなされていくよう、改善計画シートの工夫と活用を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地域包括支援センター、利用者家族等、参加も積極的で、会議規定を設け、そのもとに活発な論議が行われサービス向上に活かされつつあることが、議事録の記述からも窺い知れる。		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修に参加する事を通じての関わりを持つように努力している。市の栄養推進委員を務める栄養士が知人であるということで栄養指導を依頼した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の家族にあてて写真、受診内容、健康状態、金銭管理等記載した「ひかり便り」を毎月発行し、日常生活の場面、暮らしぶりがよくわかり、家族に喜ばれている。職員も利用者に対して担当制を取っており、家族訪問の折には口頭で伝え、状況に応じて電話で伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一昨年より家族が集まる場面作りとして敬老の日のお祝いの宴席に全家族を招待した。それをきっかけとして昨年9月に家族会が発足した。現在まで2回の会合が持たれているが親睦から始まり、家族から話を聞く機会も増えつつある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。管理者、計画作成担当者を中心に職員ともチームワークがよく図られ、利用者に安心感を与えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修会等、一人でも多く受講できるように配慮している。その他の研修会の案内も目に付きやすい場所に掲示し参加を随時受け付けるようにしている。研修を受けた人からは、伝達講習としてミーティングで報告してもらっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の知人が、昨年開設された事業所の職員を受け入れての職員研修を行い、お互いに協力しながらサービス向上に取り組んでいる。連絡協議会にも加入、会合等参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>退院後からすぐのサービス利用の場合などは、事前に病院訪問をし、アセスメントした結果をもとに利用者と家族が安心して馴染みながらサービスが受けられるよう、きめの細かな対応に努力している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は年長者としての敬意を利用者に払いつつも、一つの家族のような温かさをもって接し、利用者同士の穏やかで温かな関係にも支えられている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>管理者、職員は日常の言葉かけや対応を、アセスメントによって本人に関して把握している。情報とその時の状況に応じてよく判断し、本人の意思を尊重し行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居宅介護支援の経験もあられる計画作成担当者は計画の重要性と専門性をよく理解されており、本人、家族、職員とのミーティングを大切なものとして計画の共有化がしっかりとされた介護計画書を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に一度のモニタリング、問題がある場合はその都度、本人、家族、職員と見直しを行っている。全員による計画作成と職員からの聞き取りによる現場の意見の集約という作業を大切にしており、計画と職員が記入する経過記録が並行して綴じてあることで、モニタリングの際の目安が職員にとって計りやすく、場当たり的な介護とならない努力が全員でなされている。</p>		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院支援は本人、家族の要望に沿って行っている。本人、家族の希望による外出、外泊は自由に快くされるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に支援をお願いしていた場合、時に対応が手遅れになることを考慮し、常時受診支援ができる本人、家族にとって安心できる体制を取っている。その為の人的配置の問題を解消すべく、非常勤の職員を雇用した。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、ケアの限界までは支援させて頂き、協力病院へ連絡、相談するとしている。今後は家族と段階的に話し合いを重ね決定していくように考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応は、利用者に配慮された丁寧で穏やかなものである。書類等の管理も事務所にきちんと整理、管理がなされてある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活暦や現在の状態を尊重、配慮し、一人一人のペースで日々を過ごせる支援がなされてある。		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れており、全員刺身が好物で週に一度は献立に入れることを決めてあり、楽しみとなっている。時にビールなど嗜むこともあり、職員も共にする食卓は和気藹々とした団欒の場である。配膳、下膳、料理の下拵えや食器洗いなど利用者の出来る範囲で手伝ってもらい助かっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の就寝時間が全体として早いので夜間の入浴希望は現在はないが、入浴日以外にも希望があればいつでも入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発性、積極性を重んじ、その中で炊事、掃除機かけ、カレンダーの日めくりなどの自然な分担ができ、日々その役割を担って頂いている。外出、外食の折は、職員も共に楽しみつつ、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	認知症の更新を防ぐ取り組みの一つとしても、活動的な生活を目標に、日々の買い物等の外出や、ゆっくりと時間をかけた近隣への散歩を利用者の状態と希望にあわせ支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出てすぐ前の道路は決して交通量が少ないとは言えないにもかかわらず、管理者はじめ職員の前向きさと不断の努力により施錠されることなく開放されている。それにより近隣、地域との間に文字通り垣根がなく交流が絶えない。ひいては密接な関係が自然な近隣の見守り、声かけにつながり安全対策ともなっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防避難訓練は、自治会長はじめ地域住民によびかけ多数の積極的な参加、協力、助言を頂いている。その他、自主訓練として避難誘導のための利用者の階段昇降訓練を行っている。今後、事業主とも相談し災害用備品の備蓄の検討も予定し、訓練内容の充実も図りたいとしている。		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	知人の栄養士に、今年度は現在までに3回指導を受けた。指導により献立作成、内容に安心が得られている。水分摂取に関しては、こまめに摂ってもらえるよう配慮を欠かさないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放された玄関からすぐに続くリビング、食堂は、外の通りの様子がよく覗える窓やソファ、花が飾られ、訪問者に大きく開かれた、利用者にとってはくつろげる温かな家庭的雰囲気を十分に感じられる。		花壇には手入れされた花が美しく咲き、内部同様建物周りも掃除が行き届いているが、玄関横のゴミバケツを目に付かない場所へ移動されることが望ましいと思われる。日常の利便性もあるのかもしれないが、景観上と共に防災上避難経路の確保を考慮しご検討頂きたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや状況に応じて、持込の家具、飾りつけがあり、清潔で快適な居室作りがなされている。夜間のトイレ利用の安全を考慮し、居室の配置構造上開閉に不都合が生じるドアをアコーディオンカーテンに取り替えるなどの個々に応じた配慮もされている。		